

農業委員会だより

編集・発行
狛江市農業委員会
狛江市和泉本町1-1-5
☎03-3430-1111

おめでとう
ございます

農業委員会が推薦した
平成27年度 顕彰
受賞者紹介

企業の農業経営顕彰
東京都農業会議会長賞
東京都知事賞

小川 保さん



狛江GAP研究会副会長として尽力、品質の工夫やブランド化を図り、安定出荷に努める。また、狛江市認定農業者の認定も受け、農業経営の傍ら、保護司や行政相談員、地元小学校の食育授業にも携わっています。過去には、農業後継者顕彰にお

ける東京都知事賞受賞歴を持ち、就農当初から地域と消費者に対し、多大なる貢献をされている優秀な農業経営者です。

農業後継者顕彰
東京都農業会議会長賞

富永 和人さん



父親が本格的に始めた花卉園芸を引継ぎ、シクラメンを主体とする鉢花づくりや栽培研究等を進め、狛江市認定農業者として常に新しい農業経営を目指すことに努めています。また、生業を持つ傍ら、消防団員として重要な任務を担い、地域住民に喜ばれる優秀な花卉

農家の後継者として、将来の活躍が非常に期待されています。

農業功労者表彰
小町 新一さん



学業を終えた後、花農家で研修を受け、野菜を中心に栽培していた歴代農家を引継ぎました。その後、家業を一大転換し、昭和47年から、市内で初めてシクラメンの栽培を始めました。また、平成14年から20年まで2期6年間にわたり、狛江市農業委員として活躍。後継者の育成にも力を注ぐ地域農家の模範となっています。

北多摩地区農業委員会連合会
優秀農業経営者表彰

荒井 正さん



平成9年に造園業から家業である農業へ転身し、季節ごとの野菜や果樹を中心に、生産者と消費者の顔が見える対面販売を積極的に行い、地元消費者からの絶大な信頼を得ている。また、平成20年から26年まで2期6年間にわたり、狛江市農業委員として活躍。狛江GAP研究会会員として、低農薬、有機肥料にこだわった安全で安心できる野菜作りに努めています。

★ 狛江版CSA ★

「循環型まちづくりのための農空間の活用方法に関する実証調査」

昨年度7月から3月までの期間、狛江市は、鹿島建設と協同で実証調査を実施して参りました。

この実証調査は、国交省の平成27年度「都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査」に応募し、採択されたもので、市内農業者の協力の下、実施いたしました。



実証調査では主に次の3つのプロジェクトに取り組みました。

● ヒツジ除草



西野川で、とみなが農園を経営する富永和宏さんにご協力いただき、ヒツジ3頭の飼育拠点を提供していただきました。ヒツジ達は、農園だけでなく、市内の農地、緑地、公園に出張し、騒音ゼロ、CO₂ゼロ、ごみゼロのエコな除草を実施するとともに、市民に癒しのひ

と時を提供しました。

● ミミズコンポスト

和泉本町の飯田美郎さんの直売所横にミミズコンポストを設置させていただき、市内から発生する有機性残渣と畑から発生する農産物非食用部を堆肥化しました。また、市内飲食店から野菜残渣の提供を受け、狛江第一小学校の皆様にはミミズコンポストを題材とした環境プログラムに参加いただきました。



● コーヒー滓ヒラタケ栽培



東野川でシイタケ原木栽培を実施している高木盛美さんにご協力いただき、市内珈琲店から発生したコーヒー滓を培地としたヒラタケ栽培を行いました。原料調達の段階からすべて狛江市内で行う循環型の取り組みです。同様に狛江第五小学校の四年生のワークショップとしても実施し、資源循環や都市農業に関する学び機会を提供しました。

今回の実証調査の目的は、上記のような資源循環の取り組みを通じて環境負荷の低減や地域活性化を図ると同時に、農業者と市民の関係を強化することです。

本取り組みを通じて農業者と市民の間に新たなコミュニケーションの機会が生まれ、都市農地の資源循環や次世代教育に貢献する機能に対して、市民の認知度が上がりました。

また、国交省への報告会では農地の多面的機能を実物として見せる取り組みとして高く評価されました。



★活動備忘録★

★農地パトロール実施

平成21年の農地改正により、農業委員会では、委員全員と事務局職員で、農地が適正に管理されているか、年3回(5月、9月、12月)農地パトロールを実施しています。実施した3回の調査共に、概ね、適正に肥培管理されていました。今後も、適正な農地管理に努めるようお願い致します。



★狛江産農産物直売

平成27年12月25日(金)

狛江市役所市民ひろばにおいて、都市農政推進協議会主催の狛江産農産物直売が開催されました。販売開始より多くの市民が列を作り、好評な売れ行きでした。



★農産物品評会★

平成27年11月15日(日)

狛江市民まつり会場で開催された第57回農産物品評会では、近年の天候不順にもかかわらず、41点が出品されました。高品質な野菜や花卉類が展示され、市民への地元農産物の認知に貢献しました。



★食育講習会に参加して

平成27年7月23日

(木)、あいとぴあセンターにて、「狛江の畑を食べよう」と題し、食育講習会が実施されました。参加者は、20名(応募者20人)が参加しました。始めに、農業委員が、野菜の生育過程や土の種類、枝豆の知識や生命の不思議などについて講話を行い、次に、じゃがいもを使用した「サモサ」の調理実習を体験しました。参加者は、熱心に聴講し、大変、勉強になったとの意見がありました。



狛江の畑を食べよう!

食育レシピ

じゃがいもの「サモサ」

《材料》4人分 好きな材料を!

《じゃがいも》1個(160g)
下準備:水で皮を洗い、ラップをして、3分位加熱し、やわらかくする。
ツナ水煮缶 1缶
枝豆 10さや
ゆでて、さやかに豆をだす。

チーズ 1個:5mm角にきる
ハム 1枚:1cm角にきる
コーン缶 15g
カレー粉 小さじ1/3
塩 ひとつまみ
餃子の皮(大判) 12枚
水・サラダ油 適量

《作り方》

- ①じゃがいもは皮をむき、つぶす。好きな材料を入れてませ、12等分する。
- ②餃子の皮に①をのせ、ふちに水をぬり、しっかりと閉じる。
- ③フライパンにサラダ油を入れ、中温で両面をきつね色に揚げる。



全国農業新聞

経営と暮らしに役立つ
情報がいつばいの
農業専門誌

を講読しましょう。

■発行日/週1回(金曜日)

■購読料/月700円

■年額8400円

■申込み/各農業委員会又は
農業委員会事務局

農業者年金

たとえ、1ヶ月でも積立
た年金は将来受給できます。
詳しい内容は事務局まで

加入できる人は?

- 国民年金第1号被保険者
- 農業に年間60日以上従事する者
- 20歳以上60歳未満の者

新しい市民農園「もといずみ農園」が開園しました!

元和泉2丁目に市民農園(27区画)が新たに開園しました。農業委員会では、平成28年4月9日、午前10時15分から市民農園現地指導を実施しました。当日は、晴天の下、12名の参加者があり、初めに、狛江市地域活性課職員により現地指導の趣旨説明があり、その後、参加者からの質問に答える形式で行いました。野菜作りが初めての方が3家族あり、何を作ったら良いのか、土づくりはどうしたら良いのか等、基本的な質問から、作物の連作障害対策など専門的な質問までありました。質問の中で、「酸味が程

よく、すごく甘い、私好みのトマトを作るにはどうしたら良いのか」等、答えに窮する質問も飛び出し、予定時間を大幅に延長する程、和やかな雰囲気で行った。また、農業使用時には、他の畑に及ばないよう注意すること。害虫や病気から野菜を守るため除草はしっかりと行うよう指導しました。



狛江GAP研究会 人気上昇中!

狛江ブランド野菜

狛江GAP研究会が、GAP「農業生産工程管理」手法の取り組みによって、農産物に新たな付加価値を加え、地域ブランド野菜として生産をしていくために狛江GAP研究会を発足してから約2年。現在はPR活動として、ポップやのぼり、そして、「狛江ちゃん」のロゴマークが入っているオレンジ色のステッカーを貼った自動車が街



を走っています。

昨年は、市制施行45周年事業として、狛江ブランド野菜45円セールや、多摩川流域郷土物産展等に出品し、積極的にPR活動を行ってきました。



また、狛江ブランド野菜は、都内初のGAPへの取組み「狛江ブランド野菜」でフード・アクション・ニッポンアワード2015食文化・普及啓発部門に入賞しました。

狛江市農業功労者表彰

永年にわたり農業の先導者として地域農業に貢献された、井上和義さん、富永茂和さんが、11月23日に表彰されました。

編集後記

今回で第11号の発行となりました。

農業委員会事務局や関係者のご協力に感謝申し上げます。

農業委員会は今後も農地を守り地産地消で地域に新鮮な農産物を提供している農家を応援し活動してまいります。

これからもご協力よろしくお願ひ申し上げます。

(編集委員)

- 本橋正美 須田和男
- 飯田美郎 石黒 實
- 荒井孝之